

2017年度 栄養カウンセリング・スキルアップ研修 in 上越を開催しました

管理栄養士は、それぞれの現場で結果・成果を出すことが求められています。

現場の管理栄養士に求められる栄養カウンセリング能力は、対象者情報を的確に収集・把握し、科学的根拠に基づく最適な栄養・食事に関する栄養教育の技能・手法を実践することであり、それらの技能を有する専門家の適切なアドバイスを受け、自らが体験・経験しながら習得していくことが最も効果的です。

これまで日本臨床栄養協会が「栄養カウンセリング研修」で実践してきた「課題解決型学習」形式にて、去る4月16～17日の2日間にわたって「2017年度栄養カウンセリング・スキルアップ研修 in 上越」を実施しました。

特別講演として、前田クリニックの前田和久先生による「Integrative Healthcare における食と香りの意義」をはじめ、過去の栄養カウンセリング研修において「栄養相談専門士」と認定された5名からの症例報告を中心に、患者情報に基づく参加者同士の議論や意見交換の場を多く設定し、実践的な栄養管理に関する知識や技術の向上を図るための研修を2日間にわたって実施しました。

新潟県上越市の上越教育大学学校教育実践研究センターを会場とし、高田公園の満開の桜に囲まれた自然豊かな環境の中で集中して研修を行うことが出来ました。今後もこのようなスキルアップセミナーを実施することが大切であることを、講師陣、参加者ともに実感した2日間でした。

研修日程・内容

4月15日（土）

- 挨拶 戸田洋子先生
- 研修1「科学的根拠に基づく栄養カウンセリングの理解」野口孝則先生
- 研修2「栄養カウンセリングで成果をあげる管理栄養士になるために」
～対象者の何を見てどのように判断し記録に落とし込むのか？～早川麻理子先生
- 研修3「栄養相談専門士による症例発表」（症例発表）アドバイザー：多田紀夫先生



4月16日（日）

- 研修4「Integrative Healthcareにおける食と香りの意義」前田和久先生
- 講話「栄養相談専門士に期待すること」樫山純相談役
- 研修5「科学的根拠に基づく栄養カウンセリングの実践」グループワーク
～適切な栄養診断による栄養カウンセリングの実践～
- 参加者交流「質疑応答・意見交換」
- 研修開会挨拶アドバイザー：多田紀夫先生

